

## 対面・オンライン授業の実施について

【ご意見・ご要望】(投稿日:2024年5月10日)

大学における授業の実施方法についてですが、対面とオンラインのどちらでも講義を受けられる、いわゆる「ハイブリッド型」の講義を増やして頂きたく存じます。

私は家族と接することのできる時間は限られているという考えから、実家から大学に通う生活を送っております。私は現在大阪から通学しており、片道2時間弱の時間を要します。これを考えると1日に往復で4時間弱を要することになり、自分の時間をほとんど通学に費やしてしまうことに虚無感を覚えることが多くなっています。もちろん、通学時間を有効活用すれば良い話ではあるのですが、電車内という環境であることにより、いくら夜に睡眠を多くとっていても眠ってしまい、何かできる状態ではないことがほとんどです。また、2コマしか授業がない日には授業時間よりも通学時間の方が多くなってしまい、通学による疲れから、学問に対するモチベーションが下がってしまう現状となっています。日々の学習で維持すれば良い話ではありますが、通学時間が長いことによる虚無感を上回るようなモチベーションを維持し続けるのは困難であると考えます。

よって、その場にいなければ成り立たない実験のような授業を除き、ハイブリット型の授業にして頂けると、授業へのアクセスのしやすさから、学問にさらに励むことができると考えています。授業中の怠慢やテストの不正に対する懸念があるかもしれませんが、しかし、授業中に他のことをしている学生に関しては、対面にすることによりそれが改善されるかと言われれば決してそうではありません。何か別の策が必要なのであり、対面にすることで解決される問題ではないのです。テストにおけるカンニング等の不正に関しては、現在は感染に対する警戒を解いているため、テストのみを対面で行うことにより、オンライン授業における試験の不正を防止することができます。学生の中には、通学の手間を惜しんでしまうことにより単位を落としてしまう人も多いのではないかと思います。これらの学生の中には、金銭的な理由から大学の近くに住むことができず、長距離通学を強いられている人も少なからずいるでしょう。

以上のように、大学における授業を、対面とオンラインのハイブリット型の形にして頂くことを要望します。

どうぞ、よろしくお願い致します。

【回答】(回答日:2024年6月13日)

(回答部署:教育推進・学生支援部教務企画課)

本学はその教育理念に謳われているとおり、教員と学生との対話を教育の根幹として重視しており、この教育方針に基づく対面による教育を本学教育の基本とし堅持しているところです。

一方で、いわゆるオンライン教育の利点を授業に活かして本学の教育・学修の効果を高めることも重要であると考えており、授業科目の開講部局の判断のもと、対面授業と同等又はそれ以上の教育効果が期待できると判断される場合には、メディア授業または対面授業科目における一部メディア授業の活用が認められています。

学生生活上の様々な悩みの相談や、困っていることがあれば、各キャンパスの学生相談室に来てください。

○学生総合支援機構 学生相談部門ホームページ

<https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/ssc/>